

## 豚肉のトレーサビリティを考える

(中)日本 SPF 豚協会 赤池洋二

昨年 12 月 1 日から、BSE 対策の柱となる牛肉のトレーサビリティシステムが始動しました。

これに先立ち、農水省では、他の農産物についてもトレーサビリティシステムの開発を呼びかけていて、豚肉もそのなかに含まれています。各地でそのための講演会や研修会が開かれていますが、豚肉のトレーサビリティシステム構築には今ひとつ盛り上がりがないような気がしています。牛肉と豚肉とでこのような差が生ずるのはなぜでしょうか。最大の理由は、牛肉のトレーサビリティシステムの運用は法令にもとづくものですが、牛肉以外の畜産物では自主的に行うものである点にあります。また時を同じくして、「生産情報公表豚肉（特定 JAS）」の制度がスタートしました。これについても各地で説明会や研修会が開かれています。これらの動きが豚肉のトレーサビリティに対する考え方に混乱をもたらしています。

「豚肉のトレーサビリティ」と JAS 法で定められている「生産情報公表 JAS」の条件を混同して考えている関係者は非常に多いのです。これらの人々は、生産情報公表 JAS の要件を満たすために発生する手間と経費を恐れて消極的になっています。

トレーサビリティの目的は、流通していく商品（豚肉）の追跡と、万一、欠陥品が発見された場合の回収を可能にすることであって、生産情報の公開は必須条件ではないということをもまず理解しなければなりません。一方、「生産情報公表 JAS」

はトレーサビリティのシステムと一体の関係にあります。公表される生産情報は検証可能な流通経路（トレーサビリティシステム）があってはじめて効果を発揮できるのです。これらはつぎのように整理することができます。「トレーサビリティシステムは生産情報公表 JAS を前提条件としないが、生産情報公表 JAS はトレーサビリティシステムが前提条件なる。」

つぎに豚肉のトレーサビリティシステムを考えると、多くの場合、牛肉のそれが引き合いにだされます。そのため、すでに次のような誤解が発生しています。「牛肉の制度と同じこと（IT 関連技術を使って流通経路を追跡することや、生産情報を公開する）を実施することには、手間や経費、豚肉の流通形態から考えて、積極的に取り組む気になれない。」というものです。つぎに「特定 JAS」との関連ですがすでにのべたとおりです。

このような誤解からもたらされる混乱を解消することによってはじめて、豚肉の正しいトレーサビリティシステムの構築が可能になるのではないのでしょうか。

トレーサビリティシステム構築の前提条件は公開すべき情報の種類や質ではなく、生産者から消費者の手にわたるまでの経路が、時系列的にいつでも明らかにできることにつきると思います。このところが非常に重要な点ですが、この問題が深く議論されないうちに、IT 関連企業などから、新規ビジネスのチャンス到来とばかり、「あれも

できる」,「これもできる」というような提案があいつぎ,関係者がこれに振り回されてしまった感があります。しかし,重要なことは「生産者」,「消費者」,あるいは「中間の業者」など,誰でも,いつでも,豚肉の流通経路を追跡できるようにすることが「トレーサビリティシステム」だと思います。その仕組みが完成した後,誰がどのような情報を欲しがっているのか,あるいは食の安全を確保するにはどのような情報が役に立つのかを検討し,どのような情報をどのような形で提供するのかを決定すべきです。

まず,生産者は出荷単位(トラック一車分)を1ロットととして考えます。農場から出荷された当該ロットの豚は,と畜,冷却,解体,輸送,販売の経路を辿りますが,誰でも,いつでも,どこからでも簡単に追跡できる仕組み(生産者の顔が見える)を構築します。この仕組みが有効に機能することによって,そこに提供される情報は消費

者に正しく伝えられるようになり,トレーサビリティシステムは完成します。

IT関連のソフトやハードの活用は,めざしている目的や期待される効果が明確になってから検討し,採用していくべきだと思います。「はじめにITありき」ではITのために豚を飼育し,出荷しているというようなことになりかねません。

最後に,今盛んに議論されている食品のトレーサビリティシステムの構築について,消費者と生産者との対面や意見交換は盛んに行われています。しかし,もっとも重要な部分を担っている中間の業界(と畜,解体,カット処理,輸送などの各部門)との議論や意思の疎通,協調関係の構築などの努力が足りないように思われます。この点はこれからの最重要課題になってくるのではないのでしょうか。このことに関連して,われわれ関係者の努力はもちろん重要ですが,行政当局からの一層のバックアップを期待したいところです。